



東京大学名誉教授 / FSCジャパン議長
東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会座長

おおた たけひこ
太田 猛彦

東京都生まれ
東京大学農学部卒業
平成2年 東京大学農学部教授
平成9年より 中央森林審議会・林政審議会委員
平成10年より 砂防学会会長・日本森林学会会長・
日本緑化工学会会長等
平成12年より 日本学術会議会員
平成21年 東京農業大学 退職

「森林・林業界が一体となった震災復興への取組を！」

今回の東日本大震災により、人命、財産等が甚大な被害に見舞われましたが、海岸防災林も例外ではなく、大きなダメージを受けました。現地ですら、その光景を目のあたりにした時は、海岸防災林もやはりやられてしまったなという印象でした。

元来、海岸防災林は潮風害・塩害の防止、高潮・津波の防止、飛砂の防止、防霧などを目的に、先人が苦勞して造り上げてきたものが大半です。地元の人から聞いた話の中にも「海岸林がなくなつてはじめて、潮風を防いでくれていることに気づいた」という話や「海岸林がないと海が怖い」といった話がありました。

この海岸防災林を接点にした海と陸とのつながり、人と自然とのつながりを大切に考える方や、昔ながらの自然に近い土地利用という概念をベースに、「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」においては座長を務めさせていただきました。そういった意味においても東北地方

の復興は自然共生型社会へ向けた一つの転換点として、「エコ復興」であるべきだと考えています。

今後の課題として、海岸防災林については震災の影響で東北地方ばかりがクローズアップされていますが、これを機に全国の海岸地域、特に大地震が想定される東海や東南海においても海岸防災林の調査・計画・整備が促進されることが望ましいと考えています。

また、海岸防災林以外にも、木材加工・流通業への打撃など森林・林業界全体が大きな被害に見舞われました。復興に向けては業界全体で協力・連携していくことはもちろん、内外へ向けて積極的に復興へのプランをアピールしていくことが必要だと考えています。

例えば、これからの目指すべき方向は、低炭素型社会であり、バイオマスエネルギーと自然エネルギーを総合的に利用するカーボン・ニュートラルな地域を次々に造っていくべきだと考

えています。これを推進する上で、森林・林業関係者は森林バイオマス利用のみを掲げるのではなく、農業系バイオマスや自然エネルギーも含めて、関係機関と一体となった復興計画を提案していくことが必要です。その中で、森林を活かしていくべきだと考えています。

加えて、現在の林野行政の最重要課題は、「森林・林業再生プラン」の確実な実施であり、これは、森林・林業界ばかりでなく、国民的な課題でもあります。しかし、森林には林業以外にも、「地球温暖化防止」や「生物多様性保全」など、さまざまな側面の機能があります。これに関しては関係者の努力もあり、この50年間に充実した機能を発揮するようになりました。この充実した豊かな森林を保護することも国民は望んでいます。林業だけに偏るのではなく、森林の多面的機能の全体像を捉え、十分にバランスの取れた政策を推進してもらいたいと願っています。